

情熱大陸

校 長 武井 正明

吉中カラーガード部の子ども達の魅力とは何だ？

放課後、練習を見に行くと必ず誰かが私を見つけて手を振ってくれる。「もっと緊張感を持ってもらわないと」と捺希先生が気を揉む一方で、手を振ってもらう私はやはり嬉しい。だから練習中なのについつい「だいじょぶかあ？」と声を掛けてしまう。

「もう大変ですよ。間に合いません」「脚が開きません」「じゃ、服でごまかしちゃおうか」完璧、というよりもそれぞれができることを「プラス1」でやっていく感じ。

そう、彼女達の魅力はこの「愛嬌たっぷりの笑顔」なんだろうと思う。

ソロも熟す部長の彼女は、自分の技量とチーム全体のバランスを見極めて、伴走者のような姿勢で、練習に向かっているような印象を受ける。そこに過度な緊張はない。その分、藤田コーチが根気よくプラスの声掛けをしながら丁寧に中身を練り上げていく…。

2年振りの「彩の国くまがやドーム」今年も暑かった。

発表曲は「情熱大陸」実は私は葉加瀬太郎のファン。コンサートにも何回か足を運んでいる。「情熱大陸」はライブの最高潮で演る曲。吉中は「情熱大陸」で勝負する。

ド素人の私にできることは彼女らのモチベーションを上げることだけ。そこで考えたのが全身を彼女らと同じ情熱の赤にすること。靴は間に合わなかった。ちょっと恥ずかしかったが、上下と靴下は情熱の赤にして会場に入った。

本番を30分後に控え、捺希先生と藤田コーチ、そして8人は緊張の表情。だが、いつも「みんなで」という安心感がある。「緊張するよねえ」と言い合う中にも、どこことなく余裕がある。これが彼女達の強みだ。

発表は2組目。客席に着く。団扇で応援の保護者の方々もいらっしやった。私の隣には藤田コーチ。彼女の緊張と鼓動が伝わってくるようだ。私もやたら喉が渇いた。

そして吉中の番。誰かのお父さんの力強い掛け声が飛び、私達もそれに呼応する。

舞台中央の部長のバレエ演技ソロから静かにスタートした。そこからは、皆が落ち着いていた。ミスは許されないが、決して臆病にならず、笑顔を忘れず伸び伸びと、会場を大きく使って、軽やかに大きなミスなく演じ切った。

隣を見ると藤田コーチ。既に顔中ぐしゃぐしゃの大号泣であった。

演技後の彼女達に早く会いたい。灼熱の路上を演技用シューズで「熱い熱い」といつもの表情でバスに向かうところに追いついた。

「直前まで緊張してたけど、始まったらあまり緊張しなかった」

「本当に私たち、やれてました？」

やれてましたとも!! 吉中の、新潟の代表として堂々の演技、あっぱれだ!!

結果は…吉中悲願の金賞!! 快挙だ!! 本当におめでとう!! そして、お疲れさまでした。